

14) 骨粗鬆症検診を契機に発見された原発性副 甲状腺機能亢進症の1例

濱 齊・佐藤 栄午
津田 晶子・千葉 泰子 (木戸病院内科)
山田 明・阿部 要一 (同 外科)
所沢 徹 (同 整形外科)

15) 当院での原発性副甲状腺機能亢進症26症例 の臨床的検討

村井 政子・筒井 一哉 (県立がんセンター)
佐藤 幸示 (新潟病院内科)

【目的】1) 本症の発見契機になった症状より早期診断および組織型診断について検討した。2) 術前局在診断法の有用性について検討した。

【対象, 方法】1994年12月までの15年間に当院で本症と診断され手術した症例は26例。男性5例女性21例, 年齢24~70才, 平均56.2才。過形成10例, 腺腫13例, 癌3例 (MEN I型2例II型1例)であった。

【結果】1) 発見契機となった症状は, 高Ca血症が最も多く。次いで腎結石, 頸部腫瘤, MEN, 骨病変, 消化性潰瘍, 肺炎であった。腫瘤径と組織型をみると腫瘤径の大きなものは癌であった。また腫瘤径が大きくなるほど高Ca血症を呈した。2) 術前局在診断は静脈血サンプリングが最も正診率が高かった。

【結語】本症例発見には血清Ca値測定が不可欠であり, 特に腎病変, 骨病変, 消化性潰瘍, 肺炎の症例には必要である。術前局在診断は, 各診断法にそれぞれ欠点があるため, まず非侵襲的なUS, シンチを施行し, 確定できなかった場合静脈血サンプリングをするのが妥当と思われる。

II. 特別講演

「原発性副甲状腺機能亢進症の治療: 散発性発生型とMEN 1型」

東京女子医科大学内分泌疾患
総合医療センター内分泌外科教授
小原孝男先生

第64回新潟内分泌代謝同好会

日時 平成7年10月21日(土)
午後2時開会
場所 新潟ワシントンホテル
4階 大和東の間

I. 一般演題

1) 亜急性甲状腺炎に続発した TSBA 陽性粘液水腫の1例

笠原 和彦・筒井 一哉 (県立がんセンター)
新潟病院内科

症例は55歳, 女性。感冒様症状後, 下痢, 動悸, 有痛性甲状腺腫を認め, FT₃ FT₄ の上昇, TSH の低下, ¹²³I-uptake 0%, CRP 陽性で, 亜急性甲状腺炎と診断した。3カ月後著明な甲状腺機能低下が出現したため精査を行ったところ TR-Ab, TSBAb 活性の著明な上昇を認め, 5カ月以上経った現も甲状腺機能低下と TSBAb 活性の著明な上昇が継続した。このことより亜急性甲状腺炎に続発する永続的な甲状腺機能低下は TSBAb が関与していることが示唆され, 機能低下が一過性か, 永続的かを TR-Ab, TSBAb チェックで鑑別できる可能性がある。

2) 心タンポナーデにて発症し生前診断ができなかった甲状腺癌の1例

河内 文女・横山 明裕
筒井 牧子・高澤 哲也
山田 幸男 (信楽園病院内科)
森田 俊 (同 病理)

症例は60才, 女性, 事務員。父が肺結核で死亡, 兄が肺癌治療中。右胸郭形成術施行, 結核性腹膜炎の既往あり。呼吸苦のため来院し, 胸水貯留, 心胸比拡大を指摘され入院。入院時, 心嚢液貯留, 大量腹水を認めた。呼吸苦のため心嚢液を270ml 排液し, 胸水・腹水を試験穿刺。心嚢液と腹水の細胞診は adenocarcinoma であった。再び呼吸苦となり, 腹水1,200ml 排液後, 抗癌剤を腹腔内に注入したが死亡した。病理解剖では大腸・心臓・肺・骨に腫瘍細胞を認め, 組織診で甲状腺乳頭癌の特殊型であるびまん性硬化型乳頭癌の転移と診断された。全身播種後の剖検で診断のついた稀な1例と考え, 報告した。